



2004年スマトラ
地震支援から始まり
今年で10回目
ユニセフ：ハンドインハンド
募金と東日本支援基金!!
プロ：アマ：小学生女子大生：など15組

第10回 参加協力券 500円 駅伝ライブ

2013年11月10日(日)： 開場 / 11時 開演 / 11時30分 ~ 19時30分
協力(順不同) NPO法人音の風・京都ビートルズ研究会・沖縄音楽なぁ：(株)ファミリーマート松本酒造：
ひょうたん島・日本名門酒会：「まちみらい東山」：集西楽サカタニ：ファミリーマートサカタニ京阪七条

- 11:30 ~ 京都市立池田東小学校 すいんぐきつず - ジャズ -
 - 12:00 ~ 澤田好宏 - フォーク -
 - 12:30 ~ ひょうたん島 - ほっこり系音楽 -
 - 13:00 ~ The Marshmallow Pies - ビートルズ
 - 13:30 ~ 京都女子大学落語研究会：落語
 - 14:00 ~ 加藤克明 - オリジナルフォーク
 - 14:30 ~ Kyoto Praise of Grace Gospel Choir (KPG) - ゴスペル -
 - 15:00 ~ ロミオ&ジュリエット - 日本の叙情歌 昭和歌謡・世界の名曲
 - 15:30 ~ シーナ・きのほら クラシック・ジャズ・ロック -
 - 16:00 ~ JERREYBEANSオリジナル・ロック
 - 16:30 ~ 京女大ダンスラブUnlimited ダンス
 - 17:00 ~ 後藤コータロー - POPS -
 - 17:30 ~ 18: J MAC '65 - GS&J-POP -
 - 18:00 ~ 沖縄音楽のなぁ！ - 沖縄音楽
 - 18:30 ~ ulare.pad 昭和歌謡・世界の名曲
- 以上15組の色々なジャンルの人たちが、当社の
ギャラリーカフェ集：と楽々ホールを交互に
禱をつなぎながら演奏をします。
当日は、1Fのファミマ店頭での演奏 あり。
協力券は、500円
出入りは券の「提示」で自由
募金のイベントです。



月刊サカタニ友の会ニュース

発行(株)サカタニ
集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・
東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
Eメール info@sosake.jp
編集・酒谷義郎

朝粥食べておシャベリ会 報告

第106回 定例第3日曜日
10月20日朝9時
お話し：遷層の京大四回
高銚(たかくも)博さま
1948年生：京大理
学部・医学部の両部卒
業・現在は文学部在学
中という前天然よろず
相談所病院消化器内科
部長というお方
『二度目の還暦京都大
学合格記』なるご本出
版されている。さらっ
と流し読みをしたが、
もしこの本を私 編集



写真：上は
左は、高銚博様
話に聞き入る会場



1500円以上！
報告 第5回
馬町爆撃を語り継ぐ会
平成25年10月19日(土) 6時30分
東山区馬町バス停近く
京都市立白河総合支援学校東山分校
図書室にて当会会長濱田健一挨拶後
お話し「爆撃された当時の状況と
その後の馬町付近のこと」を
爆撃時学区伝令員だった
石本喜代史氏より40分聞いた
爆撃碑について 石田泰和氏
碑について提案 意見交換をした。
碑の原石は確保済・場所も学校校門付
近に内定済で、「碑」の文字の検討に入
り「馬町空襲の地」と刻し、脇に右に
被害状況を記入し・2024年(平25)
1月16日(爆撃の日)に序幕式開式を
します。資金は全て募金にて、ご協力
をお願いします。
〒振替払い込み口座を開設するとして。
ご協力賜りたくお願いします。
加入者石田泰和(会世話役)
口座番号00960 2 113887 要振込料

馬町空襲の地石碑イメージ



この様な形の
「駅伝ライブ」
は、事情で今回で
最後になるかも。
形を変えて継続の
努力をします。



馬町空襲の地石碑イメージ
この様な形の「駅伝ライブ」は、事情で今回で最後になるかも。形を変えて継続の努力をします。

「物言えば唇寒し秋の風」
で「貴方の隣にスパイがいる」
との戦時標語が復活するよう
な事になりかねない。
戦後68年。戦争を体験し
た人の多くは亡くなった。空
襲に怯え、腹をすかせて寝ら
れない時代は二度と御免だ。
今、「馬町空襲の地」の碑
建立募金活動をしている。多
くの人人々に「京都も被空襲地」
だったと知らせたい。戦争は
人類の人類による残酷行為だ。

どんつき

10月は私
にとつて特

別月：2023年10月1日現在地
で(株)サカタニを開店した。
超貧乏時代を逃れたい一心
で、当時私の年収の10倍近い
債務のある酒販売免許のある
会社を引受けて立った。
開店4日後立ち寄った母親
以上の母だった祖母が10日に
急死した。家内の母も年は違
うが同10日が命日。
国民学校6年疎開地から戻っ
た10月10日?の新聞で、戦争
反対で囚われ獄中18年の徳田
志賀両氏の釈放記事を見た。
多くの国民が神国で正義の
戦争と信じ、信じさせられて
いた時代に抗して、私が生まれ
る5年前から監獄と驚く。
今、問題の「秘密保護法案」
は、徳田志賀を捕らえた「治
安維持法」に似て為政者が反
対意見を押し込む法案だろつ。
「物言えば唇寒し秋の風」
で「貴方の隣にスパイがいる」
との戦時標語が復活するよう
な事になりかねない。



ヨシイちゃんの一ひりごと

運・鈍・根

1974年10月1日(株) サカタ

はスタートした。「ワイン&フーズ」と冠して、店舗設計施工は「サントリー」の子会社、古い京町家風な旧屋を洋風に「カテイ

サーク」の看板を上げて。当時は「ジョニ赤黒・ホワイトホース全盛の時代だったが、何時か「軽くサッパリとしたタイプ」の時代が来ると先取りした。日本酒も大手酒を減らし「地方酒」を多くした。10月1日〜5日まで開店特売を

した。開店の前日まで「酒問屋」の常務だったので、仕入れは自分のもの。「開店ワンツウスリセー」の名をつけ「特売」をした。酒の特売は業界では「法度時代」組合・税務署から呼び出しがあった。が開店セールだと押し切った。(以後も毎月初めの二日間を続けた。)

写真:吉田の父親にて右は編集者・中央が祖母。前の子(弟)・妹たちとその母。後、もつ二人の妹が増えている。



れはって良かったなあ」と喜んで呉れた。二時間ほど話し私は「明日宇治の教会へ行く日やなあ、

一人で大丈夫か」と聞いた。祖母は「うん京阪中書島からKさんと一緒に」「ほな気をつけて」と言い交わし店に戻った。それが最後の別れになる。翌10日体育の日。開店後の初休業日。ゴロリとTV。そこに2時過ぎ父から電話が、「おはあチャンが宇治で死んだ! これから吉田へ連れて帰る」

10日宇治の部下教会秋大祭で「お勤め」の後、祖母が上級の會長として信者さん達に前の八足台に手を置き、「今日は皆さんきて下さっておおきに」挨拶の頭を下げた後、メガネがポトンと落ちた。異常と気づいた信者さんが身体の傍へ、既に息が絶えていたと言った。祖父と祖母が造った「店」の場所、孫の手で酒屋(株)サカタ(一)を復活したのを見届け、ホッと気が緩んだのかも知れない。83歳、厳しかったが優しい祖母だった。当初、祖父に習って「立飲み酒場」予定していたが、祖母の死でその開店は12月にまで延期した。

知らんまに

石動敬子

台風がこんなに頻繁に来るなんて異常気象は計り知れない域まで達して、それで政治もこんなにかしら。しらんまに憲法も変えればと提案、失言とみなされた某政治家がいたが、本人はまったく本気だったのでは? というのもここ京都でも知らんまに値上げや変更、いやもつと偉いことが目白押しと思えます。正気の沙汰ではないようです。

サスペンスドラマながら怒涛のように事件やなんやかやがおしよせてくる。そんないま、お急ぎの秘密保護法案などは何とも怪しい。テレビドラマでも沖縄返還の際の軍事機密の真実を突き止めようとした記者がどなんひとい目に

江戸城境皇居に 天主閣がない理由 上杉持朝の家臣太田道灌が、(長禄元年)に江戸城を築城。後、豊臣秀吉から北条氏旧領関八州を与えられ駿府(静岡)から転居した権大納言徳川家康が江戸城を居城



『十王図』 信光 土佐 三途川 絵

あつたか、にならず、三途の川は自力で渡る後の祭り、と笑顔の老人でいっぱい。私も仲間に入れてもらつた話の色々ある。そんな様が、これぞ市民の良識のつぼだ。皆、あの敬老証がしほむようでは京都の名が泣くと怒っている。ケチな話などではなく、さすが、京都の証をこそよろしく。そう、爆日に何本もサスペンスドラマが放映される。見るともなく見ているも犯人は意外な善人で、そんなこともあるのかという涙の物語もあるが、社会の構造的矛盾に切り込んだものは決まって蜥蜴のしっぽ切りで、後は闇の中。政治経済的権力者はやりと立ち去る。そんなわけで、民衆は一度たつて戦争責任を認めさせられてない。例えばの話は、えらい小さな無理を通せば道理はつけます。年寄りの言つことよつよつきかんと危ないでつせ。世界の京都も。多くの大名や幕臣が再建を主張したが、「天主閣を再建、する金があるなら被災者の救済に使用」と四代將軍家綱の臣、保科正之が反対し將軍もその道理に従つたと伝えられ、200年それを継承した。現在の地震津波、原発、東京オリピック、おもてなしの姿勢と比べて、人間として何れが正しいか考えてみたいものだ。日本人は、注:本誌10月27日号より「櫻子の美・文は、日本史コンシェルジュ・白駒紀美様の文の大意を引用した(つもり)。



江戸城を居城

後、豊臣秀吉から北条氏旧領関八州を与えられ駿府(静岡)から転居した権大納言徳川家康が江戸城を居城

京都&東山 ぶらりピカリ

44

東福寺・通天橋

この頃
の暑さでは紅葉が遅れるだろうが、
昔ながら紅葉狩りの名所「東福寺」
を書く。古くからの読者方には若
干の重複をお許し頂きたい。

「東福寺」は、日本最古にして
最大級の伽藍があり、臨済宗東福
寺派の大本山。東山峰の34峰目・
恵日山(エニヤマ)から鴨川への
「三の川」が谷で分けるように寺
内にながれ、南北を結ぶ「痛大橋」
(写真)は紅葉狩りに絶好の場所。
時代映画のタイトルバックによく
使われている。只、この流れの
「地下水」は、音羽川や鴨川の「水」
とは少し違って酒造りには不向き
だといわれる。東福寺門前の元造
り酒屋さんによると、「仕込みは五
条近くの酒造家の水を使った」と
きく。そう言つと「塩小路以南」
深草間で酒蔵は一蔵しか無かった。



東山三六峰34番恵日山

南北・通天橋・西から

この辺りは924年(延
長2)藤原忠平のよつて建
立された「法性寺」の影響
が大きい。今有るの「法性
寺」は東福寺と本町の間に
小さなものだが、旧月輪学
区と一橋学区を占めていた
という。この寺領と重なる

奪つ)ように1283年(嘉
禎一)九条道家によつて
「東福寺」が建立され「法性
寺」の寺領は小さくなった。
法性寺大路は道幅も広く伏
見宇治へ向う幹線道路だつ
た。特に豊臣秀吉の伏見築
城後「伏見街道」が更に整
備され現本町通りになつて
いる。元々「東福寺」は九
条家山荘で、月を愛でる場
と「月輪殿」と称せられ後
の小学区名になった。明治
7年には、東福寺村と稻荷
組が合併し「福稲町」が出
来た。

先の戦時中、陸軍が寺の
一部を「兵舎」に使い、父
が部隊の経理係だったため
面会に行き貴重品だった
「お菓子」を買った。今や紅
葉名所「通天橋」も昭30年
頃までは「バイク」で通り
抜けが出来たし、もう少し
前までは「橋の下」で紅葉
を見て「店のすき焼き会」
を開いた。窮屈な今と違い
のんびりした時代だった。

市電が走った 京都を巡る

32

福田静二



市電は、正面に大文字山を望んで
東へ向かいます。左手には前回こ
紹介した清風荘の緑の生け垣がし
ばらく続きますが、それが途絶え
ると、両側の車窓には、さまざま
な商店が続くようになります。
今出川通の道幅が少し広くなる
と「百万遍」に到着です。

東大路通と今出川通の交差点は、
百万遍と呼ばれます。住所表示に
は現れない通称地名と言えますが、
市電・市バスの停留所名だけでな
く、広く施設や商店の名称として
用いられています。ここには、東
山線(東大路通)へ曲がる渡り線
があり、1系統はこれを曲がって
東山線へ、2、12、22系統は直進
します(昭和四十七年まで)。



背後に百万遍由来の知恩寺、
京都大学をのぞむ百万遍

百万遍の由来となった知恩寺が、
この交差点から少し東へ行った北
側にあります。知恩寺は二三三
一年、悪病が流行した際に、法然上
人が念仏を百万遍唱えて祈願し、
悪病を防いだとされ、百万遍の名
が生まれたと言われます。

現在では、それほど広い寺域で
はありませんが、明治初期の地図
を見ると、現在の百万遍交差点の
東北はすべて寺域で、その由来も
納得できます。現在の知恩寺では、
毎月一回の手づくり市や、11月の
古本市など、さまざまなイベント
会場として、市民にはなじみの深
い寺になっています。

さて、百万遍といえは、言つま
でもなく京都大学の所在地として
広く知られています。東南角には
京大の石垣と校舎があり、カラフ
ルなタテカンが堂々と歩道上に並
び、交差点は、学生たちの人波が
絶えません。

京都大学は、明治二十年、東
京に対する西の学問の中心地と
して、京都大学設置
の建議を議会で、行い、
明治三〇年、法科、医
科、文学を置く、京都
帝国大学として設置さ
れました。その場所は、
京都の中心から離れた、
尾張藩屋敷跡に設けら
れます。



百万遍交差点を曲がる22系統。タテカンが賑やかに並ぶ

私にとっての市電と
百万遍との思い出、と
言えば、やはり団塊の世代だけに、
大学紛争の時代にさかのぼります。
昭和四十年代前半、京大も紛争が
続いていました。「カルチエラタ
ン」と称して、学内から出て市街
戦が行われたのが百万遍交差点で
した。ある時、全共闘の投げた火
炎瓶が誤つて自分の衣服に燃え移
り、学生が火だるまになって、逃
げ惑つ写真がありました。その背
後には、足止めされた市電の姿の
あつたのがいまも記憶に残ってい
ます。

いまの百万遍は、学生たちで賑
わい、さまざまな業種の商店が立
ち並ぶ、活気のある交差点になつ
ています。その分、天下の京都大
学の門前交差点としては、いささ
か品格に欠ける風景になっている
ような気がしてなりません。

酒屋で生きて 生かされて



第八十四話 統制と配給

前号より
1931年(昭)の恐慌の影響で酒の販賣量が激減し酒造家の休業が進みます。私共の近所(現タツノ建材の所)に有った北川酒造さんもその頃廃業され広場になり町内の相撲の土俵がありました。

当時の酒税は「造石高税」酒感元は造った量に課税され「売れなくても課税」される形でした。その調整対策で醸造量と同時に、販売業者も減らすため、酒販免許制度ができました。何処でも売れた「酒」も、販賣量の少ない店は酒免許がとれず廃業。酒卸も酒統制会社と酒造業が主体の「酒販免許組合」だけになりました。

この免許制度は1975年(昭50)頃まで酒が豊富になっても残り「酒業界」を保護したのです。その上、戦争激化、米不足で酒醸造量が激減、配給制度で酒は宝物のようになつたのです。酒の補足その中で酒統制会社に勤務した父は酒卸の「旨味を会得」した。父は、祖父亡き後、酒小売と酒場の店は、祖母と(義)母と店員に任じて昭22〜24は統制会社を引き継いだ日本酒類販賣株(現在も大手酒問屋)の下請けで祇園近く

と本町の二つ荷捌所を運営して
いました。

敗戦の混乱が治まり、酒・新式焼酎(現ホワイトリカ)・ウイスキー等が出回り清酒醸造もやや増えた1948年に酒乙卸免許制度ができました。甲卸は酒税の課製造元に代わって納付できる大手。乙卸は酒税課税済みの酒類を扱うもの。予談ですが、父の子供時代、学校の成績は、上から甲・乙・・・私の頃は、優良・可でした。お役所の古風的体質が判

書き終えた時

月二天

最近一本、

小説を書き終えました。

最近一冊、

日記を書き終えました。

最近一通、

手紙を書き終えました。

最近一話、

漫画を書き終えました。

何かを書き終えた時って、どんな風になりますか？例えば私は、壊れますね。同居人曰く、「いきなり腐ったバツタが、キャハハハと高笑いを始める！」のだそうです。しかし、その頭の中には、やりきった感やモヤモヤ、喜びや喪失感、次の切りや作品の構想等々、色んなことが入れ換わり立ち替わり浮び上っています。もつ、何を取ればいいのかも頭の中で整理出来なくなると、高笑いし始めるのです。

りますね。
酒小売と祖母名義の酒場を閉めてその「乙卸免許を申請する」という父に私は反対だった。父は「まあ申請だけするわ」でした。が実際は猛運動していて1968年(昭24)12月免許を得ました。

私の反対理由は「卸業は中間搾取のような形態の弱さを気にしたのです。中学三年から「商業コース」で学んだ知識でそう思ったのです。(昭56年迄酒卸免許は酒小売を禁止した)隣合わせの二軒家を、



死にそんな顔して笑うものから、なんとも気持ち悪いそつです。

さて、ここから暫く葛藤が始まります。なんせ、「死ぬかと思つた」と云うくらい精気を抜き取られているのですから、次に出てくる言葉は「書きたくない」です。しかし、

こつ云つ時に限って脳内には構想が浮かび、勝手に話が進んでいきます。それでも無視して書かないと、うなされて眠れなくなり、これらの段階を経て、やっと適切な確認をし、自分に書かせよつとします。けれど一ヶ月先ですと、もう暫く書きません。ここはケースバイケースで、一ヶ月の間に三本ほど切があらると、書きはじめます。始めは同時進行で、話しの中頃に差し掛かると徐々にどれかに絞ってゆき、一本ずつ仕上げてゆきま

西側は倉庫。東は事務所と住宅でスタート。マツダのオート三輪車とラビットスクーター。店は員は五名、事務1名での出発でした。弟は赤ん坊妹二人と祖母と母と女中さんが一人、酒問屋



映画「カサランカ」の制作1969年日本上映イングリッドバーグマン・ハンフリー・ボカド

は順調にスタートで儲かっていました。私は、花の?高校一年生。映画と鉄道写真に夢中でし

「頭の中は、ゴチャゴチャに生きたらいいの。」
良くされる質問ですが、「ゴチャゴチャにはなりません。題名を見れば、どんな話だったか、どんな風に進めたかったのか、前頭葉に浮かぶ情景が直ぐに切り替わります。こつして、原稿と睨めつこつしてゆくの。す。
次にぶち当たる壁は、客観的な面白味です。中間を過ぎた頃、あれやこれやと言葉を探り始めます。この言い回しの方が面白いのではないか?そう思って今書いている所から下つてゆき、至つてシンプルに書いている始めを読みかえすと、そちらの方が読みやすく、また書き直します。直し終ると、最後に取り掛かります。こつまでくると精根尽きる寸前で、また書く書かないの葛藤が始まるのです。

編集後記

編集者は、来年80歳になる

なる祖父は58歳父は63歳で没した。我が家の男性は比較的短命だった。私は幼時から病弱だった。その父より真面目に生きてきたから5年、医学の進歩でも5年の+73歳の予定で人生設計を立ててきた。調べていないが遺伝子は父系なく母方らしい幼児の遺伝病で府立のお医者さんが、もつこの子は死んでいと言われたが生き返った。

小学校時代は体操の時間は外さね、給食も虚弱児用を食ふされた。6年生の時、戦時縁故疎開で電気のないうちで過ごした。
野菜嫌いが治つた。毎日学校から帰ると山から割を運び朝は鶏の世話をする生活。それが健康な私に変えた。戦争の陰?。
戦争がなければ疎開もない以後見違える程丈夫な子になった。でも戦争は天嫌いな精神的な悩みお金のないトド底も経験した。
そんな時、しもとと救いの手がくる求めも待ってもないのに、少々努力はしているが運が良いのだろう。祖母は、運は動かん来ないと説いた。動く運が回こつから来るとも言った。とんかれりんで運が来るかもとちよつと期待しながら書き続けている。期待は外れるかも